

農場名		評価日時	
農場対応者		評価員	
備考			

必須項目(太字ゴシック体):計17項目(現場確認 8項目、聞き取り 9項目)

「適、リスク1、リスク2、-」で評価

評価方法	区分	番号	評価項目	達成水準	評価のポイント	評価	コメント
現場確認	ほ場、作業場等	1	作業場等の整理整頓、衛生管理	作業場や収穫物を取り扱う施設が整理整頓され、清潔に保たれている。	整理整頓により作業動線が確保されており、問題が発生するリスクは見られない。		
			ほ場汚染リスクの把握と対応	ほ場が汚染される危険性について、あらかじめ把握し、対応している。	過去の使用履歴や周辺の状況からほ場の汚染リスクを検討しており、必要に応じて何らかの対応をしている。		
		10	鳥獣を引き寄せない農場管理	鳥獣を引き寄せないように、作物残さ等は管理された場所に保管している。	農産物、廃棄物、作物残さ等が管理されており、鳥獣を引き寄せるリスクは見られない。		
		31	汚濁水の水田外への流出回避(米のみ)	水田から濁った水が、ほ場外に流出していない。	水田の水尻(水の出口)において、水田からの泥の流出等がほとんど見られない。		
		44	土壌侵食の防止、侵食軽減対策	土壌の侵食を受けやすいほ場では、侵食を軽減する取組を活用している。	問題となる土壌侵食は認められない。又は逆さ掘り、被覆作物、草生栽培、堆肥施用、防風垣等を実施している。		
	エネルギー	9	エネルギーの効率利用	常にエネルギー消費を抑えようという意識を持っている。	何らかの省エネに取り組んでいる。 ・節電、節水、節燃対策 ・省エネ機械の選択、整備点検 ・施設、設備の修繕、など		
	廃棄物	6	廃棄物の分類、表示	廃棄物は、品目別に場所を決めて表示している。	廃棄物は種類別に分別保管され、表示されている。		
			廃棄物の適正保管	廃棄物は、飛散・流出しないよう保管している。	保管場所は、屋根やシート等で保護されるなど、廃棄物が飛散・流出するリスクは見られない。		

農場名		評価日時	
農場対応者		評価員	
備考			

必須項目(太字ゴシック体):計17項目(現場確認 8項目、聞き取り 9項目)

「適、リスク1、リスク2、-」で評価

評価方法	区分	番号	評価項目	達成水準	評価のポイント	評価	コメント
現場確認	農作業安全	12	危険作業場所の注意喚起表示	危険な作業・場所等には、注意喚起の看板等が設置されている。	危険な場所に注意喚起等を表示している。表示が難しい場合は危険作業前に再確認している。		
		13	農作業事故防止の作業環境改善	農作業事故防止のための作業環境改善を行っている。	以下のような改善に取り組んでいる。 ・農道補強、路肩草刈り、補助ミラー、手すり、柵、滑り止め、換気扇設置、など		
		14	トラブル発生時の連絡体制	非常時の連絡先リストを作成し、事故の発生リスクが高い場所に掲示している。	連絡先が見えるところに掲示されている。		
	農作業安全	15	毒劇物等の適正管理	毒劇物等は法令に従って適切に管理している。	毒劇物は他の資材と分けて施錠保管 「医薬用外」+赤地に白字で「毒物」表示 " 白地に赤字で「劇物」表示 ・液剤の下には容量以上のバット等設置		
			農業用資材の適正保管	農業用資材は、種類ごとに整理整頓して適切に保管している。	・危険物※は、管轄の消防署等に保管量、保管手続、表示方法等を確認し、適切に保管 ※危険物:ガソリン(200ℓ)、灯油・軽油(1,000ℓ)、硝酸アンモニウム、生石灰など ・保管場所の火気、換気、漏洩対策は適切		
		16	農薬の移し替え禁止	農薬の移し替えは絶対に行わない。	飲用容器への移し替えは行っていない。容器の破損等によりやむを得ず移し替えた場合は使用基準ラベルを貼付している。		
		38	適切な装備と保管	作業の特性に合わせた作業着等を着用し、適切に保管している。	作業特性に応じた装備を着用している。 ・専用のロッカー等に保管 ・使用後はよく洗浄、など		

農場名		評価日時	
農場対応者		評価員	
備考			

必須項目(太字ゴシック体):計17項目(現場確認 8項目、聞き取り 9項目)

「適、リスク1、リスク2、-」で評価

評価方法	区分	番号	評価項目	達成水準	評価のポイント	評価	コメント
現場確認	収穫物の取り扱い	26	用途限定米の区分仕分け(米のみ)	用途限定米や食用不適米が、他の米穀とはっきり区分して取り扱われている。	用途別に離れた場所に保管されている。また、出荷にあたっては、伝票や包装・容器に用途が明記されている。		
		30	赤かび病対策の徹底(麦のみ)	出荷麦から、厚生労働省の定めた暫定基準値を超える「かび毒(デオキシニバレノール)」が検出されない。	適切な赤かび病対策を実施していることが確認できる。 ・ほ場巡回による生育状況の把握と適期防除 ・指導機関の指導下で防除を実施 ・収穫後の速やかな乾燥 など		
		33	収穫から出荷までの品質低下防止	収穫した米や麦の品質低下を招かないよう、適切に施設を運用している。	収穫物の品質を維持する工夫が見られる。 ・収穫後は速やかに調製、箱詰め ・収穫物、出荷物の温度上昇防止		
		34	汚染、異物混入防止	出荷物への異物や異品種の混入を防ぐ対策を取っている。	収穫以降において出荷物に異物混入や汚染等が発生するリスクは見られない。		
	農薬使用	5	農薬の流出防止	農薬ラベルに記載されている止水期間を守っている	記録や聞き取りの内容から、止水期間を遵守していると判断できる。		
		27	農薬使用基準(ラベル)の遵守	農薬使用時は、必ず登録情報や容器のラベルに書かれている使用基準を確認し、その内容を守っている。	薬液の計量や希釈に使用する器具類が揃っており、記録や説明の内容から適正な薬液調製、使用基準の遵守が確認できる。		

農場名		評価日時	
農場対応者		評価員	
備考			

必須項目(太字ゴシック体):計17項目(現場確認 8項目、聞き取り 9項目)

「適、リスク1、リスク2、-」で評価

評価方法	区分	番号	評価項目	達成水準	評価のポイント	評価	コメント
現場確認		35	散布薬液の正確な調製	農薬散布液を作製する際は、散布面積等から必要量を計算し、適切な器具を使い調製している。	計算した薬液の必要量に対し、適切な計量器具による調製が確認できる。		
		28	農薬散布機等の使用後洗浄	農薬散布機等を使用する際は、使用後の洗浄を適切に行っている。	農薬散布機等は洗浄された状態で保管されており、洗浄水が公共用水域などへ流出するリスクは見られない。		
聞き取り	農薬使用	28	農薬散布機等の点検、整備	農薬散布機等を使用する際は、使用前後の点検を適切に行っている。	定期的な点検整備状況が確認できる。 ・作業前後の動作チェックを習慣化 ・定期交換部品は指定時期に交換、など		
		29・42	周辺へ配慮した農薬使用	防除の際は、気象条件や農薬の性質等を考慮して、周辺の環境や住民への影響をできる限り低減する努力をしている。	以下のような取組が確認できる。 ・気象条件や時間帯を十分に考慮 ・ドリフト軽減ノズル等の使用 ・飛散が少ない農薬の剤型を選定 ・周辺住民に農薬散布情報を提供 ・苦情内容を記録し、対処に努力 など		
聞き取り		36	農薬による環境負荷の低減対策	病虫害の発生状況を把握して農薬の使用を必要最低限にしている。 化学合成農薬に代わる防除手段を積極的に導入している。	病虫害発生情報の取得に努めている。 ・県、市町村、JA等からの発生予察情報 ・インターネットの情報 輪作、対抗植物、病虫害抵抗性品種、被覆栽培、マルチ栽培等を導入している。		
聞き取り	土壌管理 施肥	2	土壌診断に基づく施肥	栽培暦等を参考にして、肥料を施用している。	土壌診断結果に基づく施肥設計を作成し、適正施肥に努めている。 ・生育状況や天候を考慮して施肥 ・局所施肥技術、肥効調節型肥料の活用		

農場名		評価日時	
農場対応者		評価員	
備考			

必須項目(太字ゴシック体):計17項目(現場確認 8項目、聞き取り 9項目)

「適、リスク1、リスク2、-」で評価

評価方法	区分	番号	評価項目	達成水準	評価のポイント	評価	コメント
聞き	土壌管理 施肥	3	自家製堆肥の安全性確保	堆肥を自家製造する場合は、適切に堆肥化して使用している。	切り返しによる発酵促進を図り適切に堆肥化している。 ・70℃の発酵熱を数日間維持 ・完熟と未完熟の堆肥は区分管理		
			購入堆肥の安全性確保	購入堆肥の安全性を確認している。	原料、製造方法、成分などについて確認している。		
聞き	土壌管理 施肥	4	持続可能な農業の実践	有機物を施用するなど、持続可能な農業に積極的に取り組んでいる。	堆肥、緑肥、土壌改良材等を施用し、地力増進に努めている。 ・多毛作、輪作、不耕起栽培等の実施		
		8	作物残さの有効活用	稲わらや麦わら等を有機質資源として、できるだけ有効活用している。	稲わらや麦わら等は、有機物として土づくりに活用したり、飼料や敷きわら等として有効活用している。		
		41	土壌汚染状況の確認	有害物質による土壌汚染の恐れがないことを確認している。	次のような取組を行っている。 ・過去の履歴を確認し、汚染される恐れのある利用方法は無いことを確認している。 ・行政機関等から、地域に自然由来の汚染がないことを確認している。 ・確認のため、土壌の成分分析を実施したことがある。 など		
聞き	土壌管理 施肥	41	土壌汚染による影響の回避	(汚染の恐れがある地域の場合)汚染回避対策を取っている。	作付品目の制限、影響を回避する栽培管理方法の選択、客土の実施など、汚染回避対策を取っている。		
		32	農作業安全	体調不良時の農作業禁止	体調がすぐれない状態での作業は控えている。	自分以外の従業員の体調確認方法や体調不良時の作業制限状況が、記録や説明の内容から確認できる。	

農場名		評価日時	
農場対応者		評価員	
備考			

必須項目(太字ゴシック体):計17項目(現場確認 8項目、聞き取り 9項目)

「適、リスク1、リスク2、-」で評価

評価方法	区分	番号	評価項目	達成水準	評価のポイント	評価	コメント
聞き取り	農作業安全	11	危険作業の把握	危険を伴う作業を把握している。	危険な作業を把握しており、具体的に説明できる。		
			危険作業の回避、対応	危険を伴う作業の回避や事故発生時に備えた研修・訓練等を行っている。	研修や訓練を行うか、参加している。 ・事故回避の勉強会、講習会に参加 ・ " " に従業員が参加 ・応急処置の講習会に参加、など		
		37	有資格者等による危険作業の負担、指導	危険な作業は有資格者等が行っている。	記録や説明の内容から資格の有無、メーカー講習等の受講状況、危険作業の実施状況が確認できる。		
熟練者等による作業者の指導	育成が必要な作業者に対しては熟練者が指導している。		指導が必要な作業者がいる場合、記録や説明の内容から熟練者等の指導状況が確認できる。				
妊産婦や年少者の危険作業回避	妊産婦や年少者に危険な作業を割り当てない。		妊産婦や年少者の作業者がいる場合、危険な作業分担がないことが確認できる。				
聞き取り	記録、書類	7	廃棄物の適正処理	農業生産活動によって発生した廃棄物は、地域のルールや法令を遵守して処理している。	委託契約書、マニフェスト、JA等の委託伝票等により廃棄物の適正処理が確認できる。または地域、行政のルールに従って処理している。		
		17	種苗等における権利の確認	種子は、正規のルートで入手している。	種子(もしくは購入苗)は種苗業者から正規に購入しており、その品種の利用条件を把握・遵守できている。		
私的な取引で入手する場合は、その品種の利用条件を確認している。	私的な取引で入手した場合、その品種の利用条件を確認している。						

農場名		評価日時	
農場対応者		評価員	
備考			

必須項目(太字ゴシック体):計17項目(現場確認 8項目、聞き取り 9項目)

「適、リスク1、リスク2、-」で評価

評価方法	区分	番号	評価項目	達成水準	評価のポイント	評価	コメント
聞		18	ほ場情報の整理と保存	生産ほ場の一覧を作成するなど、ほ場情報や栽培歴を整理し、保存している。	生産ほ場の地番、面積、栽培歴、借り入れ状況等が整理されている。(仕様書添付様式による整理)		
		18	生産活動における判断、責任の所在確認	生産ほ場について、生産活動に関する判断を行い、その責任を負うことが明確になっている。	生産活動(品目の決定、栽培管理など)について、誰が判断し、責任を負うかが明確になっている。		
き	記録、書類	20	資材の購入伝票等の整理、保存	資材の購入伝票等は、必要に応じて確認できるように、整理して保存している。	資材(種苗、堆肥、土壌改良材、肥料、農薬等)の購入伝票等が整理・保存されている。		
		24	出荷記録の一定期間保存	出荷に関する記録を一定期間保存するなどして、万一の事故発生に備えている。	出荷に関する記録(出荷品目、量、年月日、販売先等)が2年分程度保存されている。(販売委託先での保存も可)		
		43	各種保険への加入	各種保険に加入している。	書類等で保険の加入状況が確認できる。		
取		19	農薬在庫の正確な把握	管理台帳等に整理することによって、農薬の在庫を正確に把握している。	農薬の在庫管理台帳と実際の在庫が合致している。		
			肥料在庫の正確な把握	管理台帳等に整理することによって、肥料の在庫を正確に把握している。	肥料の在庫管理台帳と実際の在庫が合致している。		
り		25・40	栽培等の記録及び一定期間保存	栽培に関する記録(農薬・肥料の使用記録を含む)があり、取引先等からの求めに備え、整理・保存している。	栽培に関する記録(生産履歴)があり、整理・保存されている。収穫量については計算による推計でも可。		
		34	異品種混入防止対策の徹底	異品種の混入を防ぐ対策を取っている。(種子更新の徹底)	種子の購入伝票等から種子更新を実施していることが確認できる。		

農場名		評価日時	
農場対応者		評価員	
備考			

必須項目(太字ゴシック体):計17項目(現場確認 8項目、聞き取り 9項目)

「適、リスク1、リスク2、-」で評価

評価方法	区分	番号	評価項目	達成水準	評価のポイント	評価	コメント
聞き取り	記録、書類	39	機械類の使用 方法習熟、点 検・整備	機械・器具類の使用にあたっては、使用方 法の習熟や点検・整備を怠らない。	記録や説明の内容から機械類の使用方 法の習熟度や定期的な点検・整備の状況が確 認できる。		
			取扱説明書の 熟読と保存	取扱説明書はよく読み、きちんと保存して いる。	取扱説明書の保存状況が確認できる。た だし、取扱説明書が入手できない場合、機 械メーカー等の熟練者から取扱い情報を入 手し、機械・器具を適切に維持・管理する ことで替えることができる。		
		45	大規模施設の 運営管理体制	施設の管理運営体制を整備し、施設運 営上の責任の所在を明らかにしている。	管理運営体制に関する組織図等が確認 できる。		
	権利保護	46	知的財産の権 利保護	知的財産を保有している場合、自己の ものとして権利関係を取得している。	知的財産を保有している場合、権利侵 害のリスクは見られない。		
	点検	21 ・ 23	チェックリスト による自己点 検	年に1回以上、チェックリストを使った自 己点検を行い、改善が必要な事項があ った場合早急に対処している。	S-GAPチェックリスト等で年に1回以上 自己点検を行っている。 (農場評価申請により自己点検実施済) 改善に向けた迅速な対応が見られる。		
		22	他者からの点 検	他者からの点検を受け入れている。	JA営農指導員や農林振興センター職員 等、他者によるS-GAPチェックを受け ている。(農場評価自体が他者評価)		